

令和元年度新潟県原子力防災訓練実施報告

1 目的

新潟県地域防災計画（原子力災害対策編）に基づき、国、県、関係市町村及び防災関係機関の相互の連携による原子力災害時の体制・対応を確認するとともに、防災業務従事者の対応力の向上・習熟を図る。

住民参加により、原子力災害時の防護措置に対する理解の向上を図るとともに、訓練の結果を検証し、住民避難における問題点や課題を抽出し、現行の計画の見直しや具体化につなげる。

2 日時

1日目	令和元年11月8日（金）	10時00分～15時00分
2日目	令和元年11月9日（土）	8時00分～15時30分

3 主催等

主催：新潟県

参加機関：新潟県警察本部、内閣府、原子力規制庁、指定行政機関、県内市町村、関係市町村を管轄する消防本部、指定公共機関及び指定地方公共機関、その他公共団体、東京電力ホールディングス株式会社、刈羽村消防団

4 訓練想定

柏崎市、刈羽村等で震度6強の地震が発生し、唯一運転中の柏崎刈羽原子力発電所7号機において、原子炉が自動停止。その後、炉心冷却機能の一部が喪失し施設敷地緊急事態となり、炉心冷却機能がすべて喪失し全面緊急事態となる。

5 訓練項目

1日目（11月8日）

- (1) 刈羽村災害対策本部運営訓練
- (2) 緊急時通信連絡訓練

2日目（11月9日）

- (3) P A Z内住民避難訓練（村内全域）
- (4) 安定ヨウ素剤緊急配布・予防服用訓練
- (5) 広報活動訓練

6 訓練の実施内容

1日目(11月8日)

(1)、(2) 刈羽村災害対策本部運営訓練、緊急時通信連絡訓練

新潟県災害対策本部運営訓練と時間帯を合わせて実施した。

- 8:30 柏崎市、刈羽村等で震度6強の地震発生
- 10:00 訓練開始 本部員参集：村長以下10名、消防団長、本部要員
(東電FAX 第4報が届く)
地震発生～第1報～第3報の説明(8:30～10:00の事象)
第4報の概要説明(東電リエゾンによる補足説明)
各本部員が、村がとるべき行動を確認し情報共有
- 10:50 TV会議システム 開局準備、順次接続(県、OFC、9市町村)
- 11:20 TV会議：第2回県災害対策本部会議
・施設敷地緊急事態における防護措置の実施方針(案)の確認
～ 24時間スキップ ～
- 13:00 オフサイトセンター参集要員(副村長以下8名)は、実際にOFCへ移動
※OFCにおける訓練の様子を見学
- 14:20 TV会議：第1回合同対策協議会
・緊急事態宣言等の確認
・全面緊急事態における防護措置の実施方針の発動を確認
- 新庁舎竣工以降、初めて議場で災害対策本部レイアウトを作成した。
- 会議の映像や音声は、庁内のテレビに配信した。(TV会議含む)
- 緊急時通信訓練は、予定していた全件のFAX及び電話を受信できた。



テレビ会議の様子①



テレビ会議の様子②



テレビ画面は執務室でも視聴可



原子力防災対策検討マップ

2日目（11月9日）

(3) P A Z内住民避難訓練（村内全域）

9：00 訓練開始：P A Zの避難指示

防災行政無線（サイレン）、防災メール、ケーブルテレビ、ホームページ、緊急速報メール（携帯3社）により避難指示を発信

◆自衛隊ヘリコプターによる避難：住民24人（うち村議会議員6人）

刈羽地区（大塚、西谷、割町新田、刈羽、井岡）、赤田地区（赤田北方）

- ・ヘリコプター避難集合場所場所（源土運動広場）へ集合
- ・搭乗準備 → 搭乗 → グリーンパークあらかわ（村上市）
- ・マイクロバス2台に乗換 → 避難経由所（神林農村環境改善センター）
- ・避難経由所：受付及び避難所の案内



ヘリコプターに搭乗する様子



ヘリコプターでの移動の様子

◆自衛隊バスによる避難：住民34人（うち村議会議員5人）

1号車 高町地区（正明寺、下高町、上高町、新屋敷）、赤田地区（枯木、赤田町方）

2号車 勝山地区（十日市、西元寺、寺尾、滝谷）

- ・バス避難集合場所場所（各地区集会場）へ集合
- ・刈羽村 → 北陸道・日東道 → 避難経由所（神林農村環境改善センター）
- ・避難経由所：受付及び避難所の案内



バスに乗り込む様子



バス内での様子

◆自家用車（公用車）による避難：住民9人

1号車 油田地区（黒川、油田）

2号車 勝山地区（滝谷新田、入和田）

- ・地区集会場及び集落開発センターへ集合
- ・刈羽村 → 北陸道・日東道 → 避難経由所（神林農村環境改善センター）
- ・避難経由所：受付及び避難所の案内

◇住民避難における職員体制

- ・自衛隊ヘリコプター避難：職員3名（添乗2名、バス乗換支援1名）
- ・自衛隊バス避難：職員4名（添乗2名×2台）
- ・自家用車（公用車）避難：職員2名（運転1名×2台）
- ・先遣隊：職員3名（保健師1名を含む）
- ・本部（刈羽村役場）：職員5名（総括、避難指示発信、情報管理）
- ・乗換バス運転員：職員1名、民活1名

■自衛隊のヘリコプターやバスを利用した避難訓練を実施した。

■地域住民代表の他、村議会議員11名が訓練に参加した。

■乗換バスを活用し、ヘリコプター着陸地点変更や避難経由所変更に対応した。



(4) 安定ヨウ素剤の緊急配布訓練

- ・住民避難訓練に合わせ、安定ヨウ素剤緊急配布訓練を実施した。
- ・代替品（アメ2個）、水500ml、安定ヨウ素剤の説明資料を配布した。
- ・避難経由所の受付において、安定ヨウ素剤を受領した旨を確認した。

(5) 広報活動訓練

- ・防災行政無線、サイレン、緊急速報メールなどについて、事前に告知。

2日目（11月9日）

8：30 訓練開始：防災行政無線、緊急メール、ホームページ

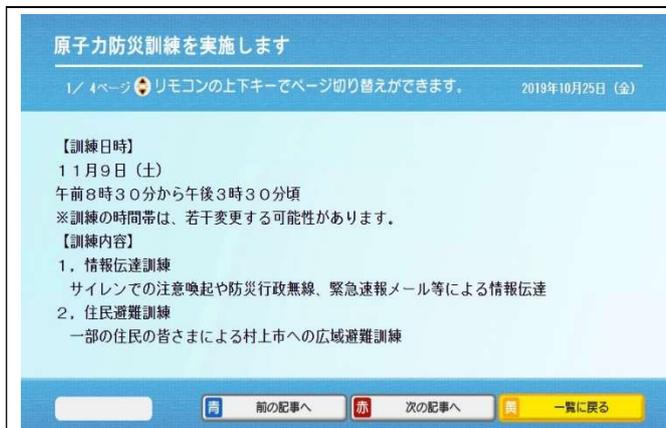
9：00 避難指示：防災行政無線（サイレン）、緊急メール、ホームページ、緊急速報メール、消防車による広報活動

帰還後 訓練終了：防災行政無線、緊急メール、ホームページ

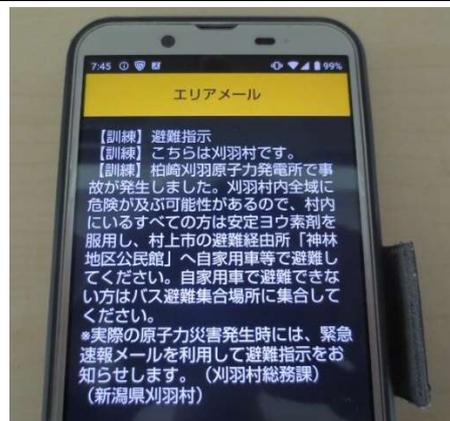
- ・ケーブルテレビによる広報の実施（文字放送、データ放送）

L字放送：(左) 刈羽村速報

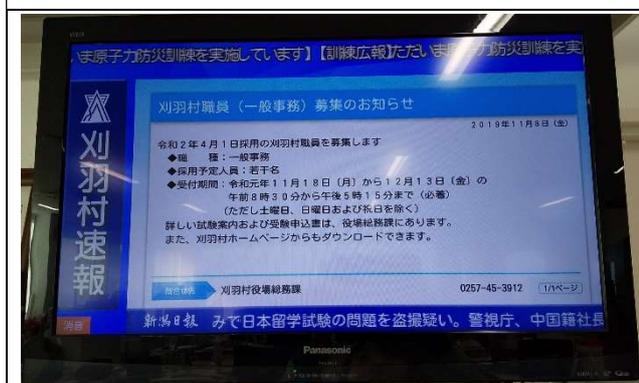
(上) 【訓練広報】ただいま原子力防災訓練を実施しています



ケーブルテレビデータ放送（訓練実施予告）



送信したエリアメール



ケーブルテレビL字放送（刈羽村速報）



ケーブルテレビデータ放送（訓練広報）

■刈羽村の緊急速報メールは、柏崎市や長岡市の一部にも届く。

■柏崎市の緊急速報メールは、刈羽村のほぼ全域で受信した。

7 参加した村議会議員の感想

原子力発電及びエネルギーに関する調査特別委員会（11月15日）

- ・実効性のある避難計画とは何か考えなければならない。
- ・自家用車で避難する訓練も必要。バスで全員を避難経路所へ連れて行けるのか。
- ・今やれることをやっただけという感じがする。
- ・ヘリコプターは約40人乗れる。要支援者優先で、スピードが大事。福島でも事故以前は1,000人位参加して訓練をやっていた。
- ・なかなか実効性があるような訓練になっていない。訓練を重ねて欲しい。
- ・行政から情報をもっと流してもらいたい。避難先までの経路の状況も知りたい。
- ・議員全員が参加できてよかった。参加したことのない住民からも参加してもらいたいので、年1回は実施してほしい。
- ・今回の訓練は初歩的なもので、緊急時の避難は間に合わないと思う。
- ・住民主体の訓練ではなかった。平成26年以降訓練をしなかったことは問題である。
- ・避難先が決まっていればスムーズに動くと思うので、伝達の方法を考えてほしい。